

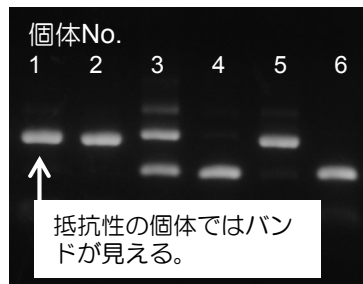


全国に先駆けて開発 — 水稻の縞葉枯病抵抗性品種の開発 —



縞葉枯病検定

縞葉枯病に強い稲が特異的に持つ遺伝子をDNAマーカーで検出。抵抗性の有無はバンドの有無で判定。



DNAマーカーによる判別



あいちのかおりSBL

（作物研究部開発）

背景

縞葉枯病は稲に大打撃を与えるウイルス病です。本県では、1965年頃大発生し、問題となっていました。

そのため、試験場では、縞葉枯病に強い稲品種の開発に取り組んでいます。

成果の内容

試験場では、全国に先駆けて、水稻の縞葉枯病抵抗性品種の開発に取り組み、「星の光」（1983年）、「青い空」（1984年）、「月の光」（1985年）、「朝の光」（1987年）を開発しました。

それ以降も「あさひの夢」（1996年）、「大地の風」（1998年）、「あいちのかおりSBL」（2000年）、「コシヒカリ愛知SBL」（2002年）、「ゆめまつり」（2007年）と数多くの抵抗性品種を開発しています。

愛知県農業への貢献

水稻の縞葉枯病抵抗性品種開発により、関東以西で猛威を振るった縞葉枯病を劇的に鎮静化することができました。

また、良食味品種である「あいちのかおりSBL」は愛知県全体の4割で栽培されています。

（作物研究部）